



境野辺田からの
大倉山(羽山)遠望

【秋保の民話は】
 民話は、おじいちゃんやおばあちゃんから孫へ、親から子へ語り継がれ、子どもたちはその世界に吸い込まれ、想像の翼を大きく広げてきました。

秋保には、約30ほどの民話が語り継がれています。民話には人々の生活の中から生まれた伝説を基盤にするものと、誰かが創作し語り継がれたものがあります。秋保の民話は、伝説が基盤になっているものが多いようです。

秋保の民話は、山や沢、岩石や樹木、目に見える自然や人々の生活・習慣などを背景に喜びや悲しみ、戒めなどを映し出し、情緒豊かに語られています。

秋保郷の中間部に位置する境野地区の昔話の舞台を巡る小さな旅、古街道と山岳ルートをじっくり歩き、先人たちの暮らしや優しさを感じてみませんか。

秋保の民話の伝承活動として、定期的に民話語りを行っています。どうぞお立ち寄りください。

- ・場 所 秋保・里センター(観光案内所)
- ・活動日 毎月第2、第4日曜日10時30分～11時30分



境野の民話



「清四郎淵」
 昔、境野の部落に清四郎という働き者の婿がおり、山仕事で木を切っていたところ、誤って大切な鉈を岩場の淵に落としてしまった。
 そこで淵に飛び込み鉈を探そうとしたところ、淵の主に引き込まれ帰ってこなかったそう。
 村人は絵出で働き者の若者を探したが、見つかることができなかったんだと。
 以来、どんな干ばつの時でもこの淵だけは、枯れることなく水を湛え、境野の田んぼを潤したという。
 村人は、働き者の魂が眠るこの淵を「清四郎淵」と呼ぶようになり、大切な水源として守るようになったんだと。



「取り上げ坂」
 ひとり息子を羽山権現の学問所へ修行に出した母親は、可愛い息子の安否を気づかい、ぜひ逢いたいと願ったが、羽山は女人禁制の神聖な御山なので、会いに行くことはできず、毎日橋のたもとまで行っては、小石を一つずつ積み重ね、息子の学問成就を祈っていた。
 数年後、母親の願いの甲斐あって、息子は立派な知徳の人となったという。
 以来、母が息子を案じ、通った坂を取り上げ坂と言うようになったんだと。

いってみっぺ
秋保 境野の民話

企画・発行：秋保地域資源活用委員会・仙台市
 連絡先：秋保総合支所総務課(022-399-2111)
 秋保市民センター(022-399-2316)

往古千年の街道に、語り継がれる物語がある。
 自然、歴史、喜び、悲しみ・・・
 境野を歩いて巡る、昔話の舞台への旅。



「板風峠の狐岩」
 長袋の若者が、長袋から板風峠を越えて仙台城下へ炭俵を運ぶ仕事をしていたある日、峠に白狐が倒れていた。若者はその狐を手厚く看護し助けてやった。そしてその後、子狐が美女に化けて若者の家を訪ねてきたんだと。
 「亡くなった父狐に親切にしてもらった御礼をしてほしい」とたのまれたので私がやってきました峠の境には松の木があります。そこを掘ってみてください。黄金が出てきます」と言われ、そのとおりにしたら、黄金がザクザク、若者は長者になったんだと。そしてのちに祠を立てて供養したんだと。

掲載されている情報は、令和2年3月現在のものです。

訪れてみたい秋保
二口街道ツアー 62

No.5

第1コース 徒歩所用 約6時間

板風峠・大倉山を歩く場合は山の装備が必要です。

1 秋保市民センター

スタート地点。境野の民話の旅、藩政時代の人々の暮らしや風景を感じながら、板風峠と羽山(大倉山)へのトレッキング、街道を行き来した旅人の境地や修験の聖地大倉山を体感する旅の始まり。

徒歩15分

2 旧検断屋敷

山形から二口峠を越え、馬場を経由して仙台北下へと向かう旅人たちは、この「検断」屋敷で秋保郷での最後の検問を受け、境野へ向かいました。

徒歩5分

3 瀬沢橋

長袋と境野を結ぶ二口街道の古い橋で、戦国時代は自然の要害を利用した軍事的要所でした。仙台北下から来た旅人たちは、この橋を渡ってつづら折りの急な坂を登り、街道の宿駅「長袋町」に入りました。旧街道の景観を今に伝える数少ない場所の一つで、人馬が坂道を前に橋の袂で一息つく風景が想像されます。

徒歩20分

4 境野桜町追分

二口街道の境野の追分で別に「桜町」とも云われています。仙台北下から板風峠を越え秋保郷に入るとこの追分で、山形方面と本砂金經由川崎方面とに分岐する。石碑には、右は二口街道の本線で山形方面へ、左は名取川を渡って園久、本砂金へと向かうことが記されています。石碑群を従えた桜の老木が古の雰囲気情緒豊かに醸し出しています。

徒歩20分

5 おっかな坂

境野の丘陵を越え板風峠へ向かう道筋、大柴沢に架かる橋を渡ると山を削った崖が道に覆いかぶさってくるような急な坂道となります。樹木や蔦類が生茂り、岩や沢の薄暗い雰囲気から、地元では何となく怖い場所、或いは何か出そうな処として、親しみを込めておっかな坂と呼んでいます。雨の日や夕方は、ひとりでは思わず走りたくなるという何とも言いえない稀な坂道です。

境野の民話発祥の地を歩いて巡る旅!



- 第2コース 徒歩所要約5時間(短いコース&はしるコース)
1 秋保市民センター
2 旧検断屋敷
3 瀬沢橋
4 境野桜町追分
9 取り上げ坂
10 羽山七社
11 大倉山(羽山)

休憩処 Kukka with Flower & Café
秋保の自然の中にあるカフェです。日替わりランチ、コーヒーをいただきながら、ゆったりとお過ごしください。

神ヶ根温泉
豊かな自然に囲まれた閑静な温泉でひと休み。気軽に日帰り入浴、宿泊や湯治などいろいろなスタイルで利用できる。

6 板風峠(板風峠の狐岩)
藩政時代、仙台北下と山形城下を結ぶ最短ルートとして関山街道の愛子と二口街道の境野をつないだ峠です。昭和初期に廃道となるまでは、秋保郷から仙台方面に向かう本線として最も往来が多かった道で、頂上付近には数基の石碑があり、民話の舞台としての痕跡を伝えています。

7 大柴沢(清四郎淵)
境野の大水田地帯を潤す大柴沢、上流部には大小のため池群があり、地元では総じて「境野大堤ため池」と称しています。清四郎淵は、自然にできた淵で、土砂崩壊前は、まれに見る蒼く深い淵だったと伝わっています。

8 森峰山(境野東館跡)
板風峠から降りてきた旅人にとって、秋保郷への玄関口となり、峠越えの重圧から解放される気分爽快な景観が広がる場所です。南に境野盆地、大倉山(羽山)、楯山そして西に大東岳と秋保の著名な秀峰を見渡すことが出来る境野地区屈指の景観ポイント。

9 取り上げ坂
民話に出てくる坂は羽山橋に降りる途中で、息子を案じる母親は、対岸の大倉山(羽山)へへの想いを抱き、名取川河岸までこの坂を往来したと伝わっています。

11 大倉山(羽山)
標高432m、約40分ほどで登ることができ、晴れていれば、東に太平洋を臨むことができます。頂上には羽山権現社(月山権現)があり、お堂の南には古代より伝わる希少な自然物、水壺を湛える「おみたらし」と称される大岩の御神体があります。

10 羽山橋・羽山七社
羽山橋付近から大倉山(羽山)一帯の名取川の南岸には、希少な自然物が点在し、これを崇敬する文化が生まれ、古くより秋保郷の修験の聖域としての歴史がある場所です。

